

令和4年度 第2回豊橋市総合教育会議議事録要録

令和4年8月17日 開 催

豊橋市教育委員会

第2回 総合教育会議	
日時	令和4年8月17日(水) 午後3時00分～4時15分
場所	市役所東館4階 政策会議室
構成員	浅井 由崇 市長 渡辺 嘉郎 教育委員 中島 美奈子 教育委員 山西 正泰 教育長 内浦 有美 教育委員 西島 豊 教育委員
事務局	朽名 栄治 財務部長 芳賀 信明 財政課長 種田 滯 まちなか図書館長 種井 直樹 教育部長 浅倉 淳志 教育政策課長 佐野 真司 図書館長補佐 ほか 5名
その他	傍聴人 1名

議事日程

協議事項

1 まちなか図書館

～知と交流の創造拠点の実現に向けた取り組みについて～

その他

1 今後の協議事項について

連絡事項

次回開催日程 令和4年 ~~12~~11月 ~~13~~14日 (火) 14:00～

(教育部長)

ただいまから令和4年度第2回豊橋市総合教育会議を開催いたします。議題は、まちなか図書館～知と交流の創造拠点の実現に向けた取り組みについて～です。

協議事項

1 豊橋まちなか図書館

～知と交流の創造拠点の実現に向けた取り組みについて～

■まちなか図書館長 協議事項について資料説明

(教育部長)

それでは、ただいまの説明に対するご意見やご質問をお伺いしたいと思います。よろしくお願いたします。

(渡辺委員)

私は図書館にはあまり行ったことはないのですが、今回は足を運ばせていただきました。特に良かった点として、テーマ配架というのは目に留まりやすくいいのではないかと思います。普通の図書館であると本を探さないといけませんが、テーマ別で似たようなものが並んでいるのは非常にいいと思います。

このテーマ配架はまちなか図書館独自のものですか。それとも、他の図書館と同じような形ですか。

(種田館長)

まちなか図書館の司書が一つずつ作り上げた独自のものとなっています。他にもテーマ配架を用いている図書館はありますが、別の切り口で行っていると思います。

(渡辺委員)

豊橋独自ということですが、何かリサーチはしましたか。

(種田館長)

はい。ただし、まちなか図書館のテーマ配架は従来のNDCを完全に否定しているものではなく、そのまま残した方がいいと判断したものについては、残している部分もあります。

(渡辺委員)

その点で、中央図書館とまちなか図書館の機能分化が図られているということでしょうか。

(種田館長)

はい。まちなか図書館では、図書館を今まで使ったことがない人にも、ハードルを低くして本にアクセスできるように、このテーマ配架を取り入れました。

(渡辺委員)

テーマ配架を採用している所は多いのですか。

(種田館長)

それほど多くはありませんので、最近では非常に多くの視察が来ています。

(渡辺委員)

まちなか図書館に来る方は、車で来られますか、それとも公共交通機関で来られますか。

(種田館長)

アンケートによると、公共交通機関で来る方が多いです。

(佐野館長補佐)

開館前に市民意識調査を用いて調査したところでは、車で来ると答えた方が40%程度であったことから、受け入れるための準備をしていましたが、アンケート結果では自転車や電車、バスなどで来館する方が約60%であり、車で来館する方は来館者全体の約10%程度となっています。

(渡辺委員)

まちなかを活性化していくためにはアフター図書館も大事だと思いますが、車で来て車で帰られてしまうとアフター図書館として機能しないため、車で来る方が10%程度であるのはいいことのように思います。豊橋のまちなかの活性化につながるものだと感じます。

(教育長)

自転車置き場はありますか。

(佐野館長補佐)

1階の東側に250台ほど置けるようになっています。

(市長)

先日のまちづくり懇談会では、まちなか図書館に一度も行ったことがない人ばかりで驚きました。まちなか図書館の来場者は、どのエリアから来る人が多いのか分かりますか。

(種田館長)

アンケート結果では、市内全域から来ているという傾向がみられましたが、今の話を聞くとまだまだ周知していく必要があると感じます。

(市長)

テーマ配架のメリットやデメリットは何かありますか。NDC配架との違いはありますか。

(種田館長)

NDC配架は管理がしやすく、また、従来から図書館を利用している人たちにとっては慣れているので、本と場所がリンクしやすく探しやすい方もいると思います。

あまり図書館を利用していない方にとっては、テーマ配架の方が分かりやすいと思います。テーマ配架では、例えば、子育ての棚に妊娠、出産、名づけ、子どもの医療に関する本などをまとめて置くことができたり、子どもの本の隣に子育てに関する本を置くことができたりするなど、配置面で多彩な工夫をすることができます。

(市長)

テーマ配架の方が良いと感じますが、そのように今後変わっていくと思いますか。

(種田館長)

まちなか図書館は蔵書が少なく、分館ということもあるので、今のところは適切に管理ができています。

(佐野館長補佐)

中央図書館については、蔵書が約70万冊あり、まちなか図書館の約6万冊と比べて非常に多いので、中央図書館全体をテーマ配架にすることは難しいです。また、書庫にも本がしまっているため、おそらくNDC配架の方が見つけやすいと思います。

(教育長)

まちなかでの周知ということで、市電の中で宣伝はしていますか。

(種田館長)

市電での周知はしていませんが、バス停については、「まちなか図書館前」という名称になっています。

(教育長)

豊橋駅からまちなか図書館に誘導するための案内はありますか。

(佐野館長補佐)

市内の公共施設を表すコミュニティサインには、まちなか図書館への案内が記載してありますが、まちなか図書館単体で設置している案内はありません。

(教育長)

まちなか図書館単体での案内はできないのでしょうか。

(佐野館長補佐)

予算など、様々な制約があり、現状はそこまでできていません。

(教育長)

今後の展開で、周知を図るということであれば、駅を降りた人がまちなか図書館に行きたいと感じさせるような工夫が必要かと思います。

もう一点、桜丘高校の企画イベントについては、中央図書館でも同じイベントを開催していたと思いますが、まちなか図書館と中央図書館で同じイベントを開催しているのでしょうか。

(種田館長)

今回の桜丘高校のイベントについては両方の図書館で実施しましたが、全てのイベントを両方でやっているわけではありません。

(教育長)

イベント開催の際は、まちなか図書館からお願いをしているのですか。それとも、先方から提案があるのですか。

(種田館長)

どちらの場合もありますが、桜丘高校の場合は、先方から提案があり開催しました。

(教育長)

先日、中央図書館で平和展の表彰式がありましたが、まちなか図書館を使うこともできるのでしょうか。

(種田館長)

可能です。展示によっては、中央図書館で実施したものをまちなか図書館で行うことによって、来館者層が異なるため、違う方たちにも見ていただくことができます。

(中島委員)

豊橋市に図書館を通じて大きな財産ができたように感じます。大学の学生や教授、保護者、保育科の方など色々な人から話を聞くと、館長が教育や子育てに力を入れており、開かれた図書館であるという評判を多く聞いています。

図書館に行くというハードルを下げている点で、活字離れなどの問題払拭にも繋がっているように感じますし、スタッフも優しい方が多く、音を出すことができるという環境から、子どもたちも過ごしやすい環境ができているように思います。

また、これまであまり図書館を利用されてこなかった方々が出入りすることで、新たな企画や展示が生まれ、図書館を利用してきた人にとっても新鮮な空間となり、非常に良い相乗効果が生まれていると感じます。本を読むところに現物が置いてあったり、遊びのスペースがあったりして、図書館の可能性が広がっているように感じました。

また、今後は、郊外に住んでいる方でもまちなか図書館に興味を持って行きやすくなるように、中央図書館などの他の図書館や、市民館にある図書コーナーなどと連携するとよりいいのではないかと思います。そのあたりの可能性はいかがでしょうか。

(種田館長)

まちなか図書館、中央図書館、向山図書館、大清水図書館がそれぞれで役割分担が明確にできて、すみ分けができるようになったことから、用途に合わせて図書館を選ぶことができる環境になっていると思います。

ただし、例えば展示に関しては、各図書館に訪れる層それぞれに届けられるよう、内容によっては巡回で行うなど、図書館同士による企画の会議で連携を図っているところであり、今後はその連携がより見える形となるよう努めていきたいと思っています。

(中島委員)

中央図書館にもその独自の良さがありますが、まちなか図書館とあまり壁を作りすぎずに、すみ分けという形で豊橋市の図書館のあり方を構築してほしいと思います。

また、まちなか図書館の居心地の良さが他の図書館や市民館にも波及していくことにより、豊橋のまちづくりや活性化にもつながると思います。

(西島委員)

まちなか図書館には私の家族が普段から通っていますが、居心地が良くて、素晴らしい施設だと思います。また、まだ行ったことのない方もいるということで、今後さらなる展開の余地があるようにも思います。

外部連携については、非常に良いやり方をされているように思います。現状では、多くのテーマを考えられていると思いますが、今後行き詰まってきた際には、商工会議所や地元企業との連携などもいいと思います。

また、来館者数についての説明がありましたが、館内の快適なスペースを提供するという観点から、混み具合についてはどうですか。

(種田館長)

学生のテスト期間などにより、多少の変動がありますが、今のところは適当な範囲で推移していると思います。まちなか図書館では、館内の混雑状況を測ることができるようになっており、必要に応じて入場制限をかけることを検討していましたが、現在までに実施したことはありません。

(西島委員)

私は休日に行くことが多いですが、適度な具合に混んでおり、快適に過ごせるように感じました。

館内では、食事ができるスペースなどの指定はありますか。

(種田館長)

2階は飲食が可能で、3階は飲み物のみ可能となっています。

(西島委員)

飲食が可能であることにより、問題が生じていることはありませんか。

(種田館長)

今のところは大きな問題なく、マナーよく使っていただいています。

(内浦委員)

まちなか図書館単体に関しては、言うことなく、素晴らしい施設だと思います。

しかし、さらに充実させるためには、まちなか図書館と PLAT、ここにこの3つの施設のつながりが欲しいなと思います。このような充実した施設が手頃に使えるという自治体は、豊橋市以外で他にないと思いますが、そのことが認知されていなかったり、施設ごとに分断されたりしているので、非常にもったいないように思います。PLAT からまちなか図書館については、距離的にも近く、連携が取れ始めていますが、ここには距離があり、非常にもったいないです。そのため、子育て世代に対して、3館を利用しやすくするためのアクセスの支援を充実させる必要があると思います。

また、イベントの告知についても、バラバラしている印象があります。個々の場所でのようなイベントがあるのか調べることは大変なので、簡単に把握できるような工夫が欲しいなと思います。

さらに、「知と交流の創造拠点」については、理念や理想などをもう少し煮詰めていく必要があると感じます。まちなか図書館はどこにでも行ける扉であり、司書の方々が開け閉めのお手伝いをしてくれるので、世界や歴史など、様々なことをたくさん知ることがで

きる場所だということもPRしていくこともいいと考えます。

(種田館長)

最近では、月に1回程度、道の駅とよはし、のんほいパーク、自然史博物館、視聴覚教育センターなどのスタッフと情報共有するための会議を始めました。お互いの実施していることは把握できるようになりましたが、例えば学芸員と司書のコラボなど、一歩進んだ活動については展開できていないため、今後動けるようにしていきたいと思います。

また、イベントの周知については、まちなか活性化センターで情報を収集し、発信しようという動きが出始めているので、そこで発信できるといいのかなと思います。

(内浦委員)

学芸員、司書、アーティスト、プロデューサーや地域の人材が、のびるん de スクールやGIGA スクールなどの仕組みとクロスすることで、地域や郷土を知る教育機会が大きく増えると思うので、ぜひ行ってほしいと思います。

(市長)

内浦委員に伺いますが、まちなか図書館と PLAT、ここにこの連携について、具体的にどのようなアイデアがありますか。

(内浦委員)

三つの施設を1日で回る・はしごするということではなく、どのように行くとアクセスしやすいのかを示すなど、選択肢の広がりをも提示できるような情報提供が必要だと思います。

(種田館長)

今のお話を聞いて、例えばここにこしか行かない人たちにも、まちなか図書館の情報が目に留まるような工夫が必要だと感じました。

(内浦委員)

豊橋には充実した施設がたくさんありますが、保護者の人たちがその恩恵を受けていることを実感できていないのはもったいないと感じます。

(市長)

ここにこに行く人がまちなか図書館に行っていないのかなど、実態をみた上で検討する必要があるように思います。

イベントが開催されている会場に行けない方たちが、イベントに参加できるような工夫をしていますか。

(種田館長)

オープニングイベントの際はオンライン配信を行いました。会話が可能な環境であるという特徴もあり、自前の機材やインターネット環境の問題から中継することは難しいため、今は記録を取ってYouTubeで流すような工夫を検討しています。

そのほかでは、ホームページにレポートを作成し、各イベントの写真とコメントを載せています。

(教育長)

私は子どもたちの活字離れが気になっていますが、まちなか図書館では中央図書館に比べて中高生の年齢での貸し出しが多いので、何か参考にできそうなヒントがあるように思います。

(渡辺委員)

学校の図書室もまちなか図書館のようなテーマ配架を参考にできるといいと思います。

(中島委員)

小学校の図書室は、以前よりも工夫されており、入りやすくなったように感じます。

まちなか図書館は飲食ができるなど居心地の良い場所だなと感じますが、このノウハウを他の公共施設にも生かしてほしいと思います。

(市長)

かつて中央図書館にも飲食のできるお店があり、気に入っていましたが、まちなか図書館にあるカフェも、継続して運営できるかどうか心配に思っています。

(佐野館長補佐)

カフェについては、午前10時から午後8時までサービスを提供しており、最近ではモーニングサービスを提供するなど様々な工夫をしているので、現状では大丈夫だと考えています。

(市長)

子どもが自分たちだけで豊橋の施設を回することは難しいと思いますが、ぜひ小中学生にもまちなか図書館の良さを知ってほしいなと思います。まちなかを回るような体験も大切だと感じます。

(教育部長)

最後に市長から本日の会議の総括をお願いします。

(市長)

様々な意見をお聞かせいただき、ありがとうございます。まちなか図書館に行ったことのない方がまだ多くいるという現状はありますが、まちなか図書館は非常によく運営されていると思います。

今後、企画やイベントのネタが切れてくともあると思うので、色々な施設とのネットワーク、つながりを大切にしてもらいたいです。

また、活字離れも問題になっています。昨日、ある企業から小中学校の図書費のため200万円の寄付をいただきましたが、本を読むことの習慣化や小さいころから本に触れることは必ず人生を豊かにするため、その意味でも図書館の担う役割は大きいと思います。みなさんが行きたくなるような豊橋の図書館を創ってほしいです。そして、他の施設との連携も進めてほしいと思います。

連絡事項

・次回開催日程 令和4年 ~~12~~11月 ~~13~~14日 (火丹) 14:00～

(教育部長)

以上で、令和4年度第2回豊橋市総合教育会議を終了します。ありがとうございました。